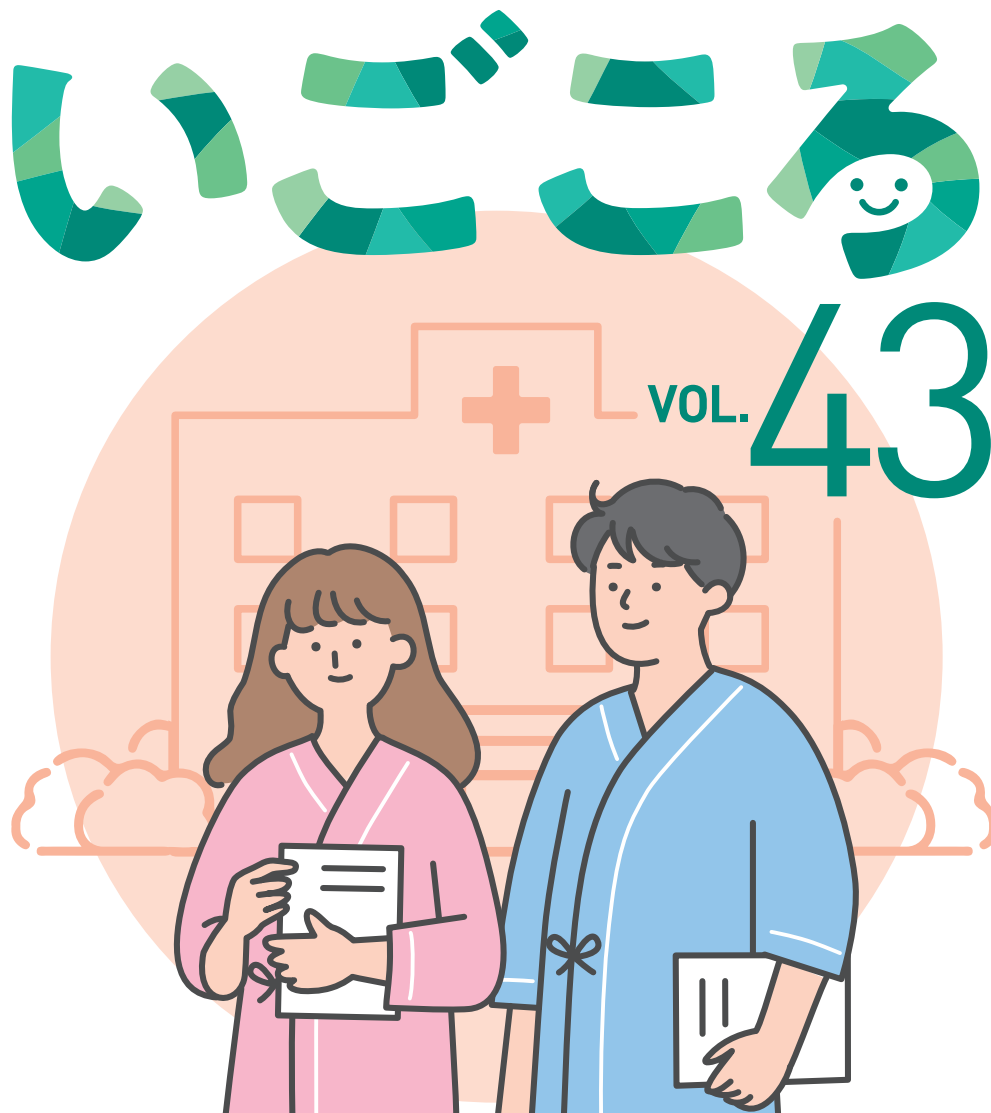


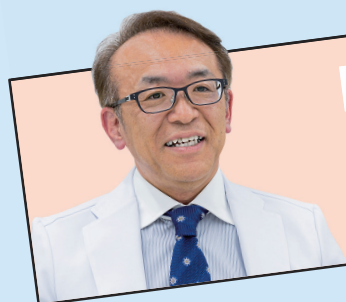


VOL.

43

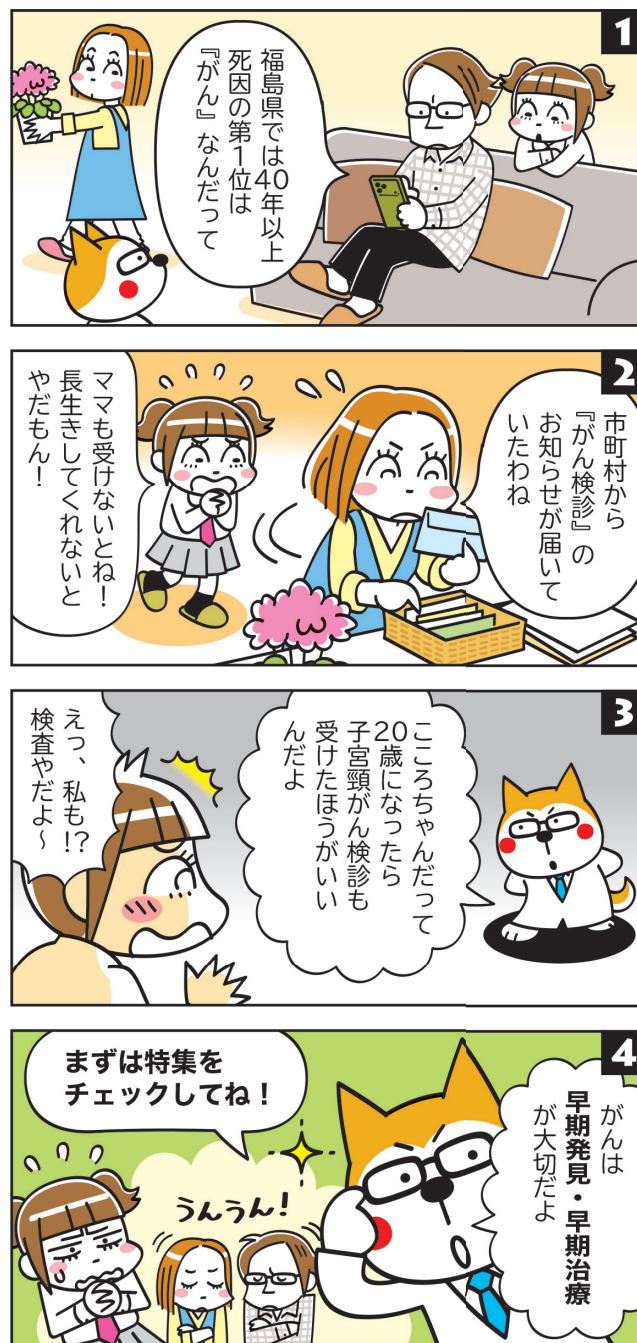
SPECIAL FEATURES

がんってどんな病気？ 怖い病気からうまく付き合う病気へ



今回お話しいただいた先生
大竹 徹 先生（おたけ・とおる）
福島県立医科大学 医学部
乳腺外科学講座 主任教授

「がん」は死に至る病気ですが、検査や治療法の進化に伴い、早期発見・早期治療ができれば治るがんも増えてきました。福島県でのがん検診受診率はおおむね3～5割程度にとどまっており、まだ受けるべき人全員が受診しているとは言えません。ぜひこの機会に、家族に「検診を受けていますか？」と声掛けしてみてください。



1 がんは「死をもたらす怖い病気」から「治る病気」へ カギは検診による早期発見・早期治療

私たちの体はたくさんの細胞からできています。正常な細胞は一定の周期で生まれ変わり、役目を終えると死んでいきます。ところが、何らかの理由で細胞の遺伝子に傷がついてしまうと異常に増殖し続けてしまうことがあります。これが「がん」という病気です。

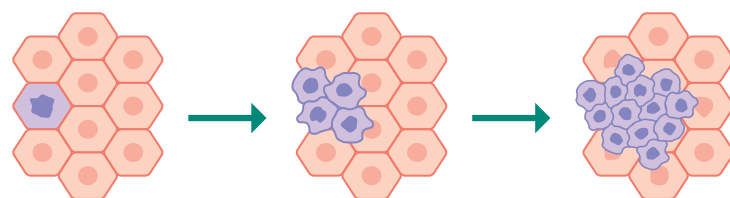
がん細胞は増殖すると塊となって、まわりの正常な組織を壊していきます。増殖スピードはがんの種類によって異なり、乳がんや甲状腺がんは比較的ゆっくりと進行しますが、粘膜、例えば口や腸など新陳代謝が速い部分にできるがんは、比較的速

く進行します。がん細胞が血液やリンパの流れに乗って全身に広がり、他の臓器で増殖することもあります。これを「転移」と言います。がん細胞が増え続けると、正常な細胞を乗り越えていき、最終的には正常な体の機能が損なわれてしまいます。

現在、日本人のおよそ2人に1人が生涯のどこかでがんになるとされています。がんは「死につながる怖い病気」です。目を背けたくなる方も多いでしょう。しかし、近年では有効な検診方法で早期に発見できれば、がんの種類によっては「必ずしも死ぬ病気」ではなくなっています。

がんってどんな病気？

まわりの組織を破壊してがんが大きくなる



① 紫外線や活性酸素が細胞の遺伝子に傷をつける。

② がん細胞が増殖

③ がんの浸潤

早期発見しやすい 五大がん



五大がんと呼ばれる胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がんは、有効な検診方法で早期に発見できれば、再発や死亡の確率は低くなります。一方で、膵臓がん、胆管がん、卵巣がんなどは早期発見が難しく、見つかった時点で進行していることが多いため、予後が厳しい傾向にあります。

2

家族や自分のがんと言われたら 治療方針について家族でしっかり話し合おう

がんの治療法

標準治療 手術

がんを物理的に取り除く方法。がん組織より一回り大きく切除する。



標準治療 放射線治療

がん細胞に放射線を当てて死滅させる方法。痛みや熱は感じない。



標準治療 薬物療法 (抗がん剤治療)

全身のがん細胞を攻撃する抗がん剤による治療。薬物療法の中で唯一の標準治療。



免疫療法

体に本来備わっている免疫の力を利用してがんを攻撃する方法。臨床試験などで科学的に効果が証明された免疫療法はまだ一部に限られるが、がんの種類によっては保険診療(公的医療保険)で受けることも可能。



がんの標準治療には、大きく分けて「手術」「放射線治療」「薬物療法」の三つがあります。

手術はがんを外科的に除去する治療です。放射線治療というのはがん細胞に放射線を照射して壊す方法で、手術と放射線治療は局所のがんをやっつける方法です。一方、薬物療法には、標準治療の抗がん剤のほか、分子標的薬、ホルモン療法(乳がんや前立腺がんなどホルモン関連のがんにのみ有効)、そして免疫チェックポイント阻害薬などの免疫療法があります。効果は全身に及ぶため、進行がんや転移がんには薬

物療法が中心となります。

どの治療を行うかはがんのできた部位、性質、進行度合い、患者さんの年齢や体の状況によって異なり、複数の治療を組み合わせることでがんの個性に合わせた方法を選ぶようになっています。

中には標準治療を「古い治療法」「最低限の治療法」ととらえ、より特別な治療を求める方もいますが、**標準治療というのは「科学的な根拠(エビデンス)がある治療法」のことです。現時点で最も信頼できる治療法ということをおぼしめよう。**

3

明らかにリスクを高める生活習慣 がんを防ぐ生活習慣

がんの発症には、遺伝だけでなく日々の生活習慣が大きく関わっています。日本人を対象としたこれまでの研究結果から、「喫煙」「飲酒」「食生活」「身体活動」「体重」の5つの生活習慣に「感染」を加えた6つが日本人のがんの発症に影響することが分かっています。

喫煙は最も強力な発がん要因で、肺がんだけでなくさまざまながんのリスクを高めることが分かっています。自分が吸わなくても受動喫煙によってリスクは上がるので、家族のためにも禁煙は重要です。

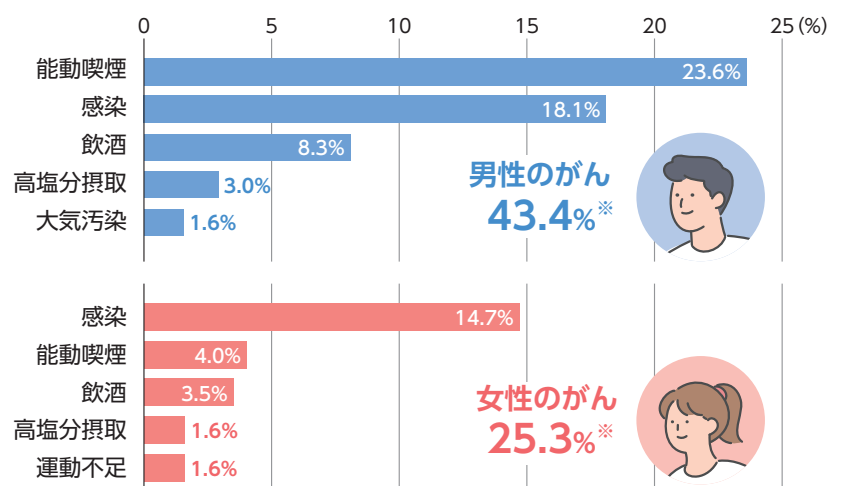
飲酒に関しては、以前は「少量なら問題ない」とされていましたが、最

近の研究では少量でも発がんリスクを上げることが明らかになってきました。お酒をたしなむなら適量を守ることが大切です。

食生活は野菜の摂取量が少ないことと塩分の過剰摂取、身体活動は運動不足ががん発症率を高めるとを示しています。肥満もさまざまながんのリスク要因です。

感染というのは主に胃がんリスクとなるピロリ菌感染を指しますが、近年では、大腸がんにおいてもリスクとなる腸内細菌があるのではと言われています。こうした感染によるがんリスクの軽減には除菌と毎年のがん検診が重要になります。

予防できたはずのがん



※2つ以上の生活習慣が複合して原因となる「がんの罹患」も含めた数値
(出典：Global Health & Medicine. 2022; 4(1):26-36.)

4

早期発見こそ最強の武器、定期的な検診

がん検診の最大の目的は、「症状がないうちにがんを見つける」ことです。体調の変化や痛みなどの症状が出てからではすでにがんが進行しているケースが少なくありません。だからこそ、**元気なうちに定期的に検診を受け、早期発見につなげるこ**

と重要です。早期に見つかれば治療率は大きく高まり、治療の負担も軽くできる可能性があります。

国が推奨する胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・子宮頸がんの「**五大検診**」は、検診によってそのがんのできる人を減らすことが科学的に証明

がん検診にはどんな種類がある？



胃がん検診

・X線検査

対象者

40歳以上の男女
(50～69歳以下を特に推奨)

受診間隔 2年に1回(年1回実施可)

・胃内視鏡検査

対象者

50歳以上の男女

受診間隔 2年に1回



肺がん検診

対象者

40歳以上の男女
(40～69歳を特に推奨)

受診間隔 年1回



大腸がん検診

対象者

40歳以上の男女
(40～69歳を特に推奨)

受診間隔 年1回



子宮頸がん検診

対象者

20歳以上の女性
(20～69歳を特に推奨)

受診間隔 2年に1回



乳がん検診

対象者

40歳以上の女性
(40～69歳を特に推奨)

受診間隔 2年に1回

がん検診 どうやって受ける？

住民健診

市区町村が実施するがん検診。自治体による検診費用の補助がある。

職域健診

企業や団体などの職場で従業員を対象に行われるがん検診。

※費用や導入の有無は企業によって異なる。





チーム医療とは？

1人の患者さんに対して、さまざまなスキルを持った医療スタッフが連携して、治療やケアに当たることです。福島県医科大学附属病院では、日々さまざまなチームが活動しています。

第10回 がん治療 多職種連携チーム

がん治療の継続をサポート

症状や副作用に対する不安をくみ取り チーム全体で治療を支援する

がん治療の現場では、医師だけでなく看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど多様な専門職が連携し、患者さんを支えています。福島県立医科大学附属病院の外来化学療法センターでも、多職種が役割分担しながら情報を共有し、患者さんが安心して治療を続けられる体制を整えています。

多職種連携の中で大切なのは、症状や不安をその場で拾い上げ、適切な支援へつなぐこ



とです。診察室では緊張し
て言えなかったことや、医
師に伝えそびれた症状が
化学療法の現場で聞けるこ
ともあります。そういった治療
現場で聞いた情報も医師や連
携部署には共有されます。例えば、
副作用によって食事が取れない患者
さんや、がんの種類・持病などで食事制限
が必要な患者さんには、栄養士による栄養指
導が役立ちます。医療スタッフが患者さんの
状態を見ながら栄養士につなぐことで、治療
中でも無理のない食事の取り方や必要な栄
養の確保について具体的な助言を受けられる
からです。

治療に伴う経済的な不安にも 全力で寄り添う体制づくり

また、抗がん剤治療は高額になることも
多く、経済面の不安が治療継続の妨げになる
場合があります。そこでソーシャルワーカー
が、医療費助成制度や高額療養費制度などの
活用、生活面の相談を担い、患者さんが制度
を理解し必要な支援につなげられるようサポ
ートします。治療の内容だけでなく「生活を維持
しながら続けられるか」という視点が欠かせな
いため、医療と福祉をつなぐ役割は重要です。

さらに外来治療では、院外処方を通じて地
域の薬局が治療を支える場面も増えます。患
者さんの多くは自宅で生活しながら薬を管理



するため、病院側と薬局側が連携し、服薬状況
や副作用、飲み合わせなどに関する情報を共
有することが、安全な治療につながります。

病院内だけで完結せず、地域も含めた連携
の中で患者さんを支える考え方が求められて
います。

こうしたチーム医療は、全員が一律に同じ関
わり方をするものではありません。患者さんの
状態や困りごとは一人ひとり異なるため、「誰
がどこに関わるべきか」を見極め、必要な支援
を適切なタイミングで届けることがポイント
になります。

近年は、がん治療が入院中心から外来中心
へと移行し、患者さんは治療の合間を自宅で
過ごします。だからこそ、限られた受診時間の
中で状態を把握し、必要な支援をつなげる多
職種連携が重要になるのです。

もっと知りたい人はこちらをチェック ▶
福島県立医科大学附属病院 臨床腫瘍センター
<https://www.fmu.ac.jp/hospitals/hikarigaoka/sosiki/syuyocenter/>



薬剤師

というお仕事

福島県立医科大学附属病院外来化学療法
センターでの薬剤師の役割は、外来化学療法
の指導と副作用に関する説明・確認、それに
応じた支持療法薬の提案です。



この方に
聞きました！

大江 敬太郎さん
(おおい けいたろう)

福島県立医科大学附属病院
主任薬剤技師
がん薬物療法認定薬剤師

副作用管理で外来化学療法を支える



支持療法薬とは、副作用・合併症・後遺症
を軽減するための薬のことです。抗がん剤は
がん細胞を殺すための薬ですが、正常な細胞
にとっては毒となるため、化学療法中には吐き
気、便秘・下痢、しびれ、倦怠感、血液毒性によ
る発熱などの副作用が伴い、生活に支障が出
ることも少なくありません。

また、患者さんの中には持病の治療のため
に何年も薬を服用されている方がいますが、
そうした薬の中に、抗がん剤の作用を阻害し
てしまうものもあるので、そのあたりの確認は

欠かせません。

私たち薬剤師は、患者さんとの会話の中か
らそういった服薬や副作用の情報を聞き出し、
適切な支持療法薬を提案することでがん患者
さんの治療に伴う心身の苦痛の軽減や生活
の質の向上をサポートしているのです。

薬剤師さん募集中！

あなたも
福島県立医科大学附属病院で
働いてみませんか？

薬剤師の現場を見学できます ▶

URL <https://www.fmu.ac.jp/hospitals/hikarigaoka/sosiki/yakuzai/>

詳しくは
こちらから ▶



地域の健康を支える クリニック紹介 vol.02

いわき市

医療法人社団 蒼緑会

ファミリアブレストクリニック

乳腺外科



院長 猪狩 史江 先生

第2回は、いわきエリアの女性の健康を願い開業した、乳腺外科クリニック「ファミリア ブレストクリニック」の猪狩史江院長に話を伺いました。

地方ならではの「受診しにくさ」 がん検診受診率の低さも際立つ

乳がんは日本人女性の9人に1人が罹患するとされる身近な病気です。長年にわたり乳腺外科医として乳がんの診断・治療に携わる中で、乳房に症状や不安があっても、「どこを受診したらよいのか分からない」「乳がん検診を受けるのが怖い」と感じ、受診をためらう方が少なくないことを実感してきました。特に地方の乳腺専門クリニックが少ないエリアでは、遠方の乳腺専門外来まで足を運ぶ必要があるののでつい受診が

後回しになってしまいがちです。

福島県では検診受診率も低く、令和6年度の国のがん検診受診率目標値60%以上に対し、福島県での受診率は47.85%、いわき市では30.28%にとどまっています。

そこで私は、乳房のことで気になることがあれば気軽に相談でき、検診や精密検査を身近に受けられる環境をつくりたいと考え、2026年5月、いわき市に「ファミリアブレストクリニック」を開院しました。



住所	福島県いわき市好間町 下好間字叶田63
TEL	0246-88-6776
URL	https://familia-brcl.com
受付時間	水曜 15:00～18:30 木曜・金曜 9:00～13:00/15:00～18:30 土曜 9:00～13:00/14:00～17:00
休診日	日曜・月曜・火曜



FMU SPECIAL

次号

医療最前線

放射線で、どうやって 治療するの？

がんを狙う。暮らしを支える。

福島県立医科大学 医学部
放射線腫瘍学講座 主任教授

すずき よしゆき
鈴木 義行 先生



群馬大学医学部を卒業。米国マサチューセッツ総合病院・ハーバード大学に研究留学。放射線治療を専門とし、現在は福島県立医科大学附属病院の放射線治療科部長として診療に携わっています。患者さん一人ひとりに合わせた治療を大切にしながら、放射線と免疫の関係を治療に生かす研究や、次代の育成にも取り組んでいます。

次号では、放射線治療の基本と利点を分かりやすく解説します。さらに、医師と医学物理士による治療計画づくりから、診療放射線技師や看護師による日々の支援まで、専門職が力を合わせて患者さんの治療と暮らしを支える現場をご紹介します。

次号の特集では、放射線治療の仕組みや方法、治療を選ぶ際に知っておきたい利点や注意点について、鈴木先生にお話を伺います。

NEW

INFORMATION & TOPICS

医大フェス初開催！

医療って、ひとりじゃできない。 未来の医療人、全員集合！

病院の仕事を見て、体験して、未来の自分を見つけよう。

患者さんを支える病院には、さまざまな仕事があります。それぞれの役割や仕事の魅力に触れてみませんか。

福島県立医科大学附属病院では「メディカルキャリアアカデミー」を開催。看護師・薬剤師・管理栄養士・病院経営事務職などの職場見学や実務体験、職員との交流を予定しています。

体験職種・詳細は応募ページでご確認ください。手術ロボット「ダヴィンチ」のデモンストレーション体験もご用意しています。



日時	2026年11月22日(日)
職業体験	10:00～11:30/13:30～15:00
会場	福島県立医科大学附属病院 (受付・集合: I&H棟)

詳細・申込はこちら
<https://forms.gle/Rp8FujFiA3EA4zLUA>



※事前申込制。応募多数の場合は抽選。

11月8日(日)福島中央テレビ「ゴジてれ×Sun!」で放送予定！
多職種連携で医療を支える仕事の現場をご紹介します。

